



カルチャープレネアータとは、文化起業家のこと。
英語の Cultural Entrepreneur を元にした造語であり、
京都から発信している新しい概念です。

文化やクリエイティブ領域の活動によって
これまでになかった革新的なビジネスを展開し、
豊かな世界を実現しようと試みる若い起業家たち。

彼・彼女たちの活動は、
「文化と経済の好循環」を地域に育む
大きな潮流になっていくかもしれません。

京都から日本、世界へ。
カルチャープレネアータの多様なあり方を
ともに歓迎し、応援していきましょう。

主催 京都市
企画・運営 株式会社よい根

カルチャープレネアータワード2023年 / 2024年 受賞者

1		小嶋 諒	小嶋商店 10代目	小嶋商店は創業江戸寛政年間創業、京提灯の製造・販売を行なっております。伝統を守り正統派の京提灯を作りつつ、提灯の新たな可能性を求め既存の概念にとらわれない提灯の在り方を提案していきます。
2		堤 卓也	堤浅吉漆店 代表取締役	堤卓也(株)堤浅吉漆店専務/(一社)パースペクティブ共同代表。明治42年創業の漆屋の4代目。採取された漆樹液を仕入れ、生漆精製から塗漆精製、調合、調色を自社で一貫して行う。受け継がれてきた伝統の工法に加え、新たに開発した高分散精製工法を駆使し、文化財修復や伝統工芸など、現場のニーズに合わせた漆をきめ細やかに提供する。漆×サーフボード、自転車、スケートボードなど、今までになかった取り合わせを通じて、漆との新しい出会いを提案。1万年前から日本の風土で使われてきたサステナブルな天然素材「漆」を、綺麗な地球と共に次の時代に継承するべきものとして、伝統の枠に囚われない漆の可能性と、植栽の輪を広げる活動を進めている。
3		北川 淑恵	季縁 代表取締役	株式会社季縁 北川淑恵です。使われなくなった着物をドレスに変えるブランドです。日本の方々のみならず、今はインバウンドのお客様からの需要も多く、今後は海外展開にも力を入れていきます。また、昨年にはラグジュアリー層の観光客に対して、ガイド通訳のマッチングプラットフォームの会社COBIも経営しています。いずれの会社もビジネスによって文化が広く伝わっていくように努力してまいります。
4		田尻 大智	Relier81 代表	Relier81(リリエイトワ)の田尻と申します。弊社は2018年より京都を拠点に「使われずに眠っている着物や帯をアップサイクル」するブランドを立ち上げ、ウィメンズシューズを軸アイテムに展開しております。日本の伝統でもある着物や帯を時代に合わせて伝承していくこと、大量の廃棄される着物や帯を素材として有効活用できるよう運営しております。
5		湊 三次郎	ゆとなみ社 代表取締役	1990年静岡県生まれ。大学入学を機に京都へ。ブラジル文化ゼミにもかかわらず、卒論は「静岡県の銭湯」。学生時代から全国の銭湯を700軒ほど巡る。2015年5月に「サウナの梅湯」として知られる「梅湯」を継業。「銭湯を日本から消さない」をモットーとする銭湯継業の専門集団「ゆとなみ社」を立ち上げ、現在までに11軒の銭湯の再建を果たす。
6		扇沢 友樹/日下部 淑世	(株)めい 共同代表	2011年に株式会社めいを共同創業。『21世紀の京都を発明する』をスローガンに不動産のリノベーションを通して新しい暮らしや働く環境開発を行う。2015年に京都中央卸売市場場外の廃倉庫街の開発事業を開始。2019年より若手現代アート作家達のスタジオ付き住居に誰でも泊まることのできる宿泊施設を併設した「河岸ホテル」を開業。2024年路地奥再建築不可物件を改修し、アートのある生活が楽しめる「現代文化住宅」を、2025年にはかまぼこ工場を改修した共同食品加工工場コミュニティFUFUをオープン予定。扇沢は不動産脚本家として、日下部はリサーチを元としたアーキビストとして活動。
7		荒川 優真	京都紋付 取締役	100年以上続く京都の伝統工芸「京黒紋付染」の老舗・京都紋付は伝統技術を活用し、洋服の染め替えサービスを展開するリウェアブランド「K」を2020年9月にスタート。荒川は2014年に5代目として入社し、21年に取締役就任。社長を務める父と二人三脚で、アパレルブランドや百貨店など200社以上と提携し、洋服のリユース・アップサイクルを広げている。強みは、独自開発した染料と定着技術を使う「深黒(しんくろ)」加工だ。天然繊維であればどんな生地でも真っ黒に染め上げる。現在はゲオホールディングスが運営するセカンドストリートや、H&M、フェリシモなども提携し、全国各地から集まってくる「大切な着」を月2,000点以上、蘇らせている。今後は、アメリカや中国、オランダなどの海外パートナー企業とも提携し、海外でも伝統技術を使った洋服のアップサイクルサービスの展開に挑む。
8		近藤 健史	京・甘納豆処 斗六屋4代目/SHUKA代表	1990年京都市生まれ。京都大学大学院で微生物を研究後、たねやグループ勤務を経て、2016年、家業の甘納豆専門店、有限会社斗六屋入社。2018年、イタリアで開催されたスローフードの世界大会に甘納豆を初出品。2020年、4代目・代表取締役就任。2022年、中川政七商店コンサルティングの元、古くて新しい種の菓子ブランド「SHUKA」を立ち上げ、80%卸売から100%自社ブランドへ事業転換。2023年、種でつくる植物性ジェラート「SHUKA gelato」を開発。「種を愉しむ」を合言葉に事業を展開中。
9		角居 元成	水玄京 代表取締役	高校～大学の7年に及ぶロンドンでの学生生活終了後、会社員としての経験を培うためBofA証券へ入社。幼少期から抱いた神社仏閣を修繕する宮大工への憧れを発端に、縮小していく日本の伝統工芸市場も自らの手で活性化させたいとの思いを温めて、2022年3月に「水玄京」を設立。京都を中心に全国各地の職人と契約を結び、オンラインストアでの販売事業では京焼・清水焼、備前焼、江戸切子、尾張七宝、輪島塗など93種、2,414のプロダクトを世界に向けて販売している。SNSでの販促活動を支援するコンサルティング事業では、職人の手による製品の製造工程を詳しく紹介した動画を水玄京の公式アカウントで公開。反響は大きく、すでに再生回数100万回を超えるものも多数ある。日本の伝統工芸の技術や製品はそのままに、SNSなど現代の機知を活用してより広く世界に発信し、その市場を支えようとしている。
10		松崎 陸	京藍染師	京藍染師 松崎陸 1990年京都に生まれる。22歳の時にNYで藍染に出逢い、帰国後に愛媛県西予市にて養蚕から手織り、和裁までを一貫して学ぶ。その後、京都で約200年続く染色工房・染司よしおか五代当主・吉岡幸雄氏に師事。染司よしおか独立後、大正時代に滅びた京都原種の藍「京藍」を復活させる。現在はアーティスト活動を軸に置き、2023年には妙心寺 桂春院へ掛軸作品「京藍壁観図」を奉納。2024年にはKANSAI YAMAMOTOとの合作をJapan Mastery Collectionにて発表
11		龍崎 翔子	水星 代表取締役 CEO Creative Director	株式会社水星 代表取締役 / ホテルプロデューサー。1996年生まれ。東京生まれ京都育ち。2015年に水星を設立し、『メディアとしてのホテル』を掲げ、プティックホテル「HOTEL SHE.」「香林居」や産後ケアリゾート「HOTEL CAFUNE」をはじめ、全国で宿泊施設の経営を行う。ホテルの自社予約サービス「CHILLNN」の開発・運営や、宿泊施設の開業支援も行う。著書『クリエイティブジャンプ』。

12		岸 えりな	株式会社 水星	1994年、兵庫県丹波篠山生まれ。2022年2月に株式会社 水星へ入社したのち、現在はHOTEL SHE, 統括支配人として京都と大阪に構えるHOTEL SHE, 2施設のブランド統括を担う。また株式会社水星全社のグラフィックデザイナーとしても活動中。支配人として現場にも立ちつつ、「詩のホテル2024」や映画「ICE CREAM FEVER」とのコラボレーション企画などのPM業務を担当。ホテルの可能性を広げるようなクリエイティブを実践・拡張している。	18		大西 里枝	株式会社 大西常商店	1990年京都市生まれ。大正2年創業の扇子製造小売会社「大西常商店」の四代目女将。NTT西日本に入社後、2016年に家業へUターン転職。扇子に使用する竹骨の特性である「香りを保つ力」に着目し、ルームフレグランスを開発。京ものユースコンペティショングランプリ受賞。社長就任後は「扇子を軸に、京都文化の風をうむ会社へ」をミッションに、京都の文化と風習に着目し、インバウンドに向けた生活文化体験プログラムを運営。京都新聞「現代のことば」コラム執筆中。
13		清水 宏輔	Casie 取締役	1987年生まれ。同志社大学卒業後、2010年にコンサルティングファームに入社し、レンタル・リユースビジネスの事業化支援を約150社経験。2013年に起業し、プランペンでリユース事業を展開、半年で3店舗に拡大後、事業を売却。2017年に藤本氏と株式会社Casieを共同創業し、取締役就任。	19		西田 知裕	株式会社 So Japan	京都市伏見区出身。東京大学経済学部卒。三井物産にて約8年間、子会社の経営改革、出資先スタートアップとのJV設立を担当した後、インド駐在にてCoCo壱番屋インド展開を担当。その後、ベトナムの飲食ブランドPizza 4P'sのインド事業責任者として新規国での事業立上りをリード。日本とインドの架け橋になりたいという思いから、2024年に株式会社So Japanを設立。主に日本ブランドのインド進出や現地飲食店向けに日本文化教育を行っている。

受賞者がおすすめするカルチャープレナー

14		小島 怜	株式会社 Agriture	株式会社Agriture CEO 京野菜及び日本全国の伝統野菜を活用した乾燥野菜の製造及び、販売事業を展開。立命館大学で農業地理学を専攻したのちに、コロナ禍に学生起業。その後、京都で15以上の生産者と連携し、規格外野菜のアップサイクル手段として乾燥野菜の製造と販売を促進。その後、2023年に包丁大手の貝印グループに参画。ASIA全体、中国、日本でのデザイン賞も複数受賞 出身は京都市東山区、好きな野菜は万願寺とうがらし	21		松崎 圭佑	MASRIO 代表取締役	株式会社MASIRO CEO 松崎圭佑です。「日常にもっとアートを」をモットーに作品の展示・販売をできるプラットフォーム「LISAIL」を運営しております。展示したいスペースとアーティストを繋ぎ、日常にある場所から展示空間を作っております。
15		中井 さいこ	野と知・出雲路本制作所・LIVE DESIGN School	楢円出版体 野と知 代表/出雲路本制作所 主宰。学芸出版社での企画編集業を経て、2022年に独立。出版フローのなかにあるさまざまな可能性（里山とマテリアル、読書の方法、本を基点にした運動化など）をひもとき、野生的知性/知性的野生をもって生きるプレイヤーたちを著者に迎え、よりおもしろい出版のあり方を実験しています。地域とデザインの学校 LIVE DESIGN School 運営局	22		前田雄亮	N's 1182	西陣織帯地製造3代目として後継をしました。その他学生の頃に伝統工芸のみを使用したアパレルブランド「N's 1182」を立ち上げてファッションデザイン、テキスタイルデザインを中心に活動しています。日本の伝統文化、工芸を使用したファッションショーを中心に新たな販売戦略を特徴にブランド拡大を行っています。
16		並河 杏奈	一般社団法人Fogin	京都市府亀岡市出身。関西大学政策創造学部卒。2016年より地域の気候風土や文化に着目し、活性化やビジョン策定の取り組みに携わる。2018年より株式会社ツナグム（京都移住計画）にて移住促進事業に参画。2020年に一般社団法人Fogin（フォグイン）を立ち上げ、地域限定旅行業を取得。現在は、亀岡市を拠点にコミュニティ・ツーリズムや流域空間デザインなどのプロジェクトにおいて現地コーディネーターを務める。京都市立「Sustainable Gastronomy Research Archive Book」編集担当。	23		谷川 嘉浩	京都市立芸術大学	京都市在住の哲学者。京都大学総合人間学部、大学院人間・環境学研究所という多分野の学問に囲まれた環境で、アメリカ哲学や日本哲学などを研究。現在は京都市立芸大デザイン科の教員を務める。公刊著作は20冊以上。『スマホ時代の哲学』（ディスカヴァー・トゥエンティワン）、『人生のレールを外れる衝動のみつけた』（ちくまプリマー新書）などの一般書の出版を機に、オムロン、博報堂、インフォマートなど、企業との協働を本格化させた。マーティン・ハマーズリー『質的社会調査のジレンマ』（勁草書房）などの翻訳、ボードゲーム「DAIGAKU」の原案・ゲームデザインも担当。
17		蜂屋 佑季	蜂屋うちわ職店	京うちわ職人 1990年 山形県米沢市生まれ 建築を専攻した学生時代を経て京都に移住し京うちわ制作に携わる。創業330年の京うちわ老舗「阿以波」を含む2軒のうちわ屋で修行したのち独立し、2019年4月に現在の左京区鹿ヶ谷に「蜂屋うちわ職店」を開く。各工程ごとに専門の職人がいる伝統的な分業制の業界で唯一、材料である竹の仕入れからデザイン・制作まで全工程をひとりで一貫して手掛ける形でうちわ制作を行なっている。個人や企業・ブランド依頼の制作のほか、国内外アーティストへの作品制作協力も多数。	24		森下裕之	株式会社 田園紳士	京都市京丹後市で、地域おこし協力隊を経て起業。農業の活性化に寄与するため、農産物卸・加工品開発・イベント企画など様々な事業を展開しております。京丹後市を中心に近隣の約40軒の若手農家と連携し、活動しております。